

事業活動実績報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	忍者修行
2 実施期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>基本の動きも、言葉がけを工夫して飽きずにひとつひとつ丁寧に行ないます。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>友だちと一緒に、慌てずにしっかりと修行中。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>この遊具でも忍者修行が行われます。ネットや棒をつかっ ての修行です。安全に効果的に行なわれるように人工芝を おいてあります。</p>	
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	<p>写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

効果検証報告書

施設名		熊野幼稚園
教育理念		心身ともに健康で基礎体力のある子の育成
事業の区分(5領域)		健康 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名		忍者修行
2 事業概要		体系化された運動遊びを通して、幼児期の全身運動を行ない、脳を育て、心を育てる。(運動プログラムの動きを遊びにつなげ、遊びの中でも繰り広げられる形を考えた結果が「忍者修行」である)
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 全教員が運動プログラムを学ぶことから始め、次に、元々あるカリキュラムの中にどのように運動プログラムをいれていくか検討を行う。全ての園児が主体的に取り組み、「できなかったことができた」という体験を幼児期という脳もからだも一番育つ時期にみんなが味わえるようにする。 教職員では不足している部分を、専門指導者により補う。
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 定期的に学年ごとに運動遊びの実施状況を報告しあうことで、体系化された運動遊びプログラムがクラスによる大きな差なく実施される。専門指導員による指導は、教職員が不足している知識を補うだけでなく幼児のやる気が刺激された。幼児の様子にあわせたプログラムを構築することは、主体的に繰り広げられる遊びにもつながった。今年度実施できなかったが、教員一人ひとりの知識を深める研修の実施は柔軟なプログラムの立案に効果があると思う。
計画時	4 事業のねらい	子どもが通年通して飽きることなく、運動を子どもの力によって能動的に行なうような環境づくりをし、好奇心、やる気、達成感、自信、集中力を育む。
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 肯定的な言葉がけを意識して、全ての園児が主体的に取り組み「できなかったことができた」という体験を味わえるようにすることを基本とした。短い時間でも毎日欠かさずことなく実施することが、子どもの育ちにつながる。わくわくどきどきの詰まった計画をたて日々実行することでの動きに運動遊びプログラムを組み込むようにした。
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 毎日の忍者修行(15分程度) 月2回の専門指導員との忍者修行を通して、身体・頭脳・心をバランスよく発達させる子ども同士の遊びで繰り広げられている忍者修行(かくれんぼをしている時に、忍者のようにそっと移動する。その時の歩き方がプログラムの一つである。) 移動の時に繰り広げられている忍者修行(みんなで移動する場面で、プログラムにある動きで移動する。) 忍者に憧れを抱き、忍者を意識して活動する。
	事業後 5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 『かっこいい忍者のように』を意識し、わくわくした活動になるように取り組んだ。素早い動き、静かな動きは、忍者をイメージして繰り広げることができた。忍者へのイメージを膨らませるためには、忍者の歴史や役割をわかりやすく伝えることが足りていないと感じた。

計画時	6 環境構成	<p>プログラムにある動きを、用具なども用いて行う。          子どもが飽きずに集中できる短い時間で、楽しく継続して行うようにする。          子どもの様子を見ながら、プログラムを組み合わせた複雑な動きは専門指導員の力を借りて行う。  <u>新たな用具を導入し、子どものやる気を起こす。</u></p>
	事業後	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>6についての効果・検証</p> <p>園内の環境をいかして、様々な場面で忍者修行に取り組む姿がみられた。田んぼの雑草取りの場面でさえ、子どもたちは主体的に忍者修行を行っていた。          主体的な遊びで忍者修行の広がりをもたせられるよう、新しく導入した遊具は脳やからだに更に育つことをねらったものとした。さらに、遊具の下には人工芝を置き、安全に裸足でも活動でき、忍者修行の効果が高まるようにした。</p>
7	期待される効果 児童の姿	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <hr/> <p>自分の身体を使って、自分の力で遊ぶおもしろさを知る          集中しようと思ったら集中していられる身体、きちんと座っていられる身体、友だちを思いやれる身体に育つ  <u>人と比べるのではなく、自分自身の変化・成長を感じられるようになる。</u></p>
	事業後	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>人と比較して優劣をつける姿はなく、自分自身と向き合い、様々な身体の動かし方を楽しみ、小さな成功が自信につながっている。話をきくときにほとんどの子が姿勢保持ができるため、集中して話がきけ、充実した活動ができる。姿勢保持に課題を持つ子へのまなざしも温かく、周りの子がつられて活動から逸脱してしまうことは徐々に減り、手助けする場面もみられ、集団としての成長も感じられた。身体が育ち、手先までも器用になり、制作への興味が広がる、長い時間細かいところまで観察する力が備る等様々な活動での深まりがみられた。教員がプログラムを理解し、プログラムの効果による子どもの育ちを計画段階から予測できるようにしていきたい。</p>
8	効果検証 総括	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <hr/> <p>身体の発達はすべての活動の基礎となる。脳科学に基づいた体系化された運動遊びプログラムを取り入れることで、友だちとのかかわり、話をきく力、をはじめとする日常生活のレベルが上がることがわかった。人の話をきく力がつくことは、仲間との遊びや活動の理解の深まりにつながる。落ち着きなく、遊びを深めることができない子どもにとって、体系化された運動遊びの実践は非常に効果的である。グレーゾーンを疑われる子どもたちの変化は顕著である。遊びが深まり、集中力がでて、思いやりの心が育ち、仲間とコミュニケーションができる子どもに変わっていく。周囲の子が、課題のある子を認め、助ける姿が見られはじめ、全ての園児の心が豊かに育った。</p>